

○第4回熊野川の総合的な治水対策協議会 議事要旨

開催日時：平成25年12月26日（木）14:00～16:00

開催場所：大阪合同庁舎第1号館 第一別館3階第四会議室

出席者：近畿地方整備局河川部長、紀南河川国道事務所長、紀の川ダム統合管理事務所長、紀伊山地砂防事務所長

三重県県土整備部長、奈良県県土マネジメント部長、和歌山県県土整備部長

天川村長、五條市長（代理）、野迫川村長、十津川村長、田辺市長（代理）、新宮市長、

熊野市長（代理）、紀宝町長（代理）、上北山村長（代理）、下北山村長、北山村長

関西電力(株)土木建築室長、電源開発(株)西日本支店長

近畿中国森林管理局（説明者）

議事要旨

1) 各機関の取り組み状況の報告、意見交換

(1) 堆積土砂の対応状況について

- ・近畿地方整備局河川部、紀南河川国道事務所、奈良県、和歌山県、三重県、紀の川ダム統合管理事務所、関西電力(株)、電源開発(株)西日本支店より資料-1について説明。

→10月より熊野川河口に台船が入り、土砂運搬が始まっていることについて、大変ありがたく思っている。三重県からの説明では浅利地区で掘削が始まるとのことであり、一歩前進している。(新宮市長)

(2) 治山・砂防の取り組みについて

- ・近畿中国森林管理局、奈良県、和歌山県、三重県より資料-2について説明。

(3) 河道閉塞の対応状況について

- ・紀伊山地砂防事務所より資料-3について説明。

(4) ダムの運用改善の試行状況について

- ・近畿地方整備局河川部、電源開発(株)西日本支店、紀の川ダム統合管理事務所より資料-4について説明。

→平成25年台風18号の際、相賀地点で約2mの水位低下効果があった。住民にとって平成23年の被害も記憶に新しいところであり、大変ありがたく思う。一方で濁水が解消しない。平成26年7月で熊野川は世界遺産登録後10年を迎え、鉄道各社が大々的なキャンペーンを打ち出すなど来年は観光客の増加が見込まれ、注目を集めている。マスコミでも熊野川の濁りが取り上げられ、市への問合せも多い。電源開発(株)の濁水に対する考えをお聞かせ願いたい。(新宮市長)

→濁水が続いているのは十津川筋であるが、濁水軽減対策として、濁水の早期排出により貯水位を下げ、清水を貯留している。平成23年頃までは効果があったが、平成23年台風12号以降は上流の大きな崩壊もあり、少雨であっても濁水が発生し、常態化している。これを受け、濁水軽減対策としての濁水早期排出期間の延長、十津川第二発電所の出力をハーフに落とすなどの改善策を講じている。データを蓄積し、更なる改善に取り組んで参りたい。(電源開発(株)西日本支店長)

→水質汚濁防止連絡会を設置しており、そこで各社の取り組みを報告している。連絡調整会議で情報共有を図り、相談に応じながら、連絡調整を図っていききたい。山腹崩壊も進んでおり、面的な進捗を図って頂くべく、関係者と協議を進めていききたい。(事務局)

- 電源開発(株)の取り組みは理解できるが、これまでと同じ取り組み内容である。短期的に効果を発現させるものとして濁水防止フェンスの設置などプラスアルファの対策を考えて頂きたい。(新宮市長)
- 濁水の早期排出期間、ハーフ運転の実施は対策着手当初より長い期間行っている点についてご理解いただきたい。濁水防止フェンスは風屋ダムで大規模な出水に対して検討したが目立った効果は期待できない。また、流木が非常に多く、フェンスが機能しないことが考えられる。中小出水への効果を検討していきたい。(電源開発(株)西日本支店長)
- 治山・砂防事業で崩壊地に緑を戻す取り組みは一つの大きな効果であるが、長い期間がかかる。引き続き、関係機関で協力のうえ、濁水軽減対策に取り組まれない。(【会長】近畿地方整備局河川部長)
- 村の上下流にダムがあり、河床の上昇を気にしている。小森ダムの貯水池で4m程度河床が上昇している。堆砂処理を考えて頂きたい。(北山村村長)
- 最近、雨が局地的に降る傾向にあり、北山川筋、十津川筋で降り方が異なる。各々の河川の状況をみて総合的な治水対策を行って頂きたい。国、関西電力(株)、電源開発(株)で10を超えるダムがあるので、すぐには難しいかも知れないが、地域のため、将来的に出来るようにして欲しい。(北山村村長)
- 2年前の洪水は国の管理する区間においても計画を上回るような規模であり、今後、総合的な治水対策も視野に入れて研究していかなければならない課題だと考えている。(【会長】近畿地方整備局河川部長)
- ダムの堆砂処理は用地的な対応も含めて総合的に考えていきたいので、また協議をお願いしたい。川筋毎の対応は技術検討会でも検討したが、それぞれのダムが個別に洪水被害の軽減対策を図ることが、合流後の洪水軽減につながることとなり、最大の効果を発現させると考えている。当面、現方策を継続したい。(電源開発(株)西日本支店)
- 熊野川の濁水は2~3週間前から少し解消しているように感じるが、何か新たな対策を講じられたのか。(紀宝町長代理)
- 新しいことは行っていない。これまで実施している濁水軽減対策が時間の経過により効果を発現させているものだと考えている。(電源開発(株)西日本支店)
- 掘削、フェンス設置など、徹底的に濁水防止策を講じられたい。今年、台風18号で相野谷川では7m水位上昇した。紀宝町では相野谷川の改修に併せて低地に農地が多く整備されており、ほぼ浸水し、畑の野菜は全滅した。洪水軽減対策は下流の状況を見ながら実施されたい。(紀宝町長代理)
- 1億m³もの土砂が発生し、これだけやってもらっているという感じを受ける。課題も多く、管理者も多岐に渡ることから、治水・治山・砂防と一元的な管理が必要ではないか。紀伊山地砂防事務所のような現地での対策を引っ張っていく事務所の存続をお願いしたい。(十津川村長)
- この協議会もこういった内容を進めて参りたいし、関係機関においても各々の調整会議等も開かれているところである。今後も努力を続けたい。(【会長】近畿地方整備局河川部長)

(5)河川情報提供の対応状況について

- ・和歌山県より資料-6について説明。

(全体を通して)

→様々な取り組みを進めていただいて県としてもありがたく思う。三重県側での砂利採取開始に感謝するとともに更なる拡大をお願いしたい。濁水について多くの意見が出たが、12号台風以降、状況も変わっている。議会でも話が出ており、電源開発(株)におかれても配慮願いたい。利水ダムの有効活用についても、さらに効果が上がるよう国交省にもお願いしたい。(和歌山県部長)

→猿谷ダムについては、課題の整理を踏まえ、試験運用の結果を提示する必要がある。関係機関との調整を経て全体の方向性を示せるよう、事務局へお願いしたい。(【会長】近畿地方整備局河川部長)

(5)その他

- ・来年度も今年度の同様の時期にて、各機関の取り組みの報告の場としたい。(事務局)

以 上